

## モニタリング調査の目的

モニタリング調査は、3年間の活動計画により活動がどのように森林の状態の改善に寄与し、多面的機能の発揮の向上につながっているかを数値に基づいて説明できるようにしていきます。

## モニタリング調査地写真撮影（写真の撮り方ガイドP5・P13）

モニタリング調査の標準値（調査対象地）の写真必ず撮りましょう。

初回調査（作業前の状況）と毎年の年次調査（作業後の状況）の写真を必ず撮影。

## モニタリング結果報告書（モニタリング調査のガイドライン P:62参照）

本報告書は3年間継続して使用します。

初回調査後に本様式に記入し、活動1年目、2年目、3年目と書き加えていきます。

目標欄や目標達成度欄には、必ず数値目標も併せて記入してください。

(記載方向)

(別紙3 様式第20号)

○年度 モニタリング結果報告書

### 1 活動の目標等

タイプ名：該当タイプを記入（里山保全タイプ・森林資源利用タイプ）

目標：

\*活動計画書の2・3年の目標欄と同様の内容になります。

\*森林の将来とともに、活動期間終了時（3年後）の具体的な数値目標を記入

【例】・下草の生える健やかな人工林を取り戻すため

3年後の樹木の本数を○本/100㎡、△本/haにする。

・ //

3年後の相対幹距比（Sr）を○にする。

・広葉樹の資源循環林とするための、

年間木材利用量を○㎡、総計△㎡/3年間にする。

など

モニタリング調査方法：

\*活動計画書のモニタリング調査方法と同内容となります。

\*具体的調査方法、調査項目を記入「①木の混み具合調査（相対幹距比）」

（参考：P76のフローチャート）

など

### 2 活動実施前の標準地の状況（○年度）

標準地の状況を記載	*森林の状況と初回調査の数値結果（採択決定して活動を開始する直前の状態）を記入 【例】 ・林内は暗く下草は生えていない。 カラマツ林：上層樹高○m（上層木の平均樹高） 立木本数 100㎡当たり ○本（Sr=○）、△本/ha など	(写真)
-----------	---	------

3 活動計画1年目の標準地の状況（○年度）

標準地の状況を記載	<p>*活動後の森林の様子と年次調査の数値結果を記入。」  <b>【例】</b>                  ・間伐を実施し林内が少し明るくなった。                  カラマツ間伐後の立木本数は、                  100㎡当たり○本（Sr=○）、△本/ha                  （間伐のための樹高計測は初回調査のみでよい）                  など</p>	(写真)
目標達成度	<p>*3年間（3年後）の数値目標と擾乱の数値結果を対比し、どれだけ達成できたか<b>数値（％）</b>で記入。                  *本数の減少数やSrの上げ幅など変動値に着目する。  <b>【例】</b>・現状の伐採本数÷目標の伐採本数  <math>3本伐採/100㎡ \div 6本伐採/100㎡ = 達成率50\%</math>                  ・現状のSr上げ幅÷目標のSr上げ幅  <math>1.3 \div 2.6 = 達成率50\%</math>                  など</p>	(写真)
次年度に向けた改善策	<p>*活動1年目の達成状況・達成度を踏まえて、次年度に向けた改善策を記入（順調であれば、「引き続き残りの区画を実施」等を記入）</p>	

4 活動計画2年目の標準地の状況（○年度）

\*2年目・3年目も同様に記入

標準地の状況を記載			写真
目標達成度			
次年度に向けた改善策			

5 活動計画3年目の標準地の状況（○年度）

標準地の状況を記載			写真
目標達成度			

（注）目標の設定及び標準地の状況の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。